

しらかわの 身近な文化財

第十八話
道ばたに眠る歴史②
石碑

石碑は、石という堅固な材料に文字を刻み、公の場に立てること、出来事が遠い未来まで伝わることを願って作られます。古い石碑として有名なものに、文武4年（700）頃建立の那須国造碑（栃木県大田原市）や天平宝字2年（762）頃建立の多賀城碑（宮城県多賀城市）などがあります。

市内で石に刻まれた文字といえば、古いものでは中世の板碑が挙げられます。また、戊辰戦争に関する供養碑なども多く見ることが出来ます。

それ以外の歴史上の出来事を刻む記念碑や人物を顕彰する顕彰碑といった石碑らしいものとなると、ほとんどが江戸時代以降のものです。



▲古関蹟碑
(1800年建立)

古い例の一つが、寛政12年（1800）に白河藩主松平定信が白河関跡に建てた「古関蹟碑」です。定信自らが文をしたため刻ませたこの石碑には、定信が研究によりこの場所を白河関の跡地と定めたことが記され、白河関跡の研究に関する重要な資料となっています。

また、南湖神社の境内にある「渋沢栄一頌徳碑」は、神社の創建に貢献した渋沢栄一の業績を記すもので、高さ3メートルを超える大きさからも、渋沢への謝意や、歴史を後世に伝えたいという建立者の想いが感じられます。

ほかにも、道ばたやお寺・神社の境内などに、各地域の歴史を刻んだ石碑が多数残されています。普段見過ごしがちな石碑の前で足を止めれば、今まで知らなかった地域の歴史を知ることが出来るかもしれません。

問 文化財課 ☎ 2310



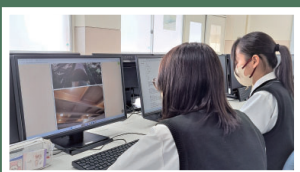
▲渋沢栄一頌徳碑
(1929年建立)

★ 新生 白河実業 Vol. 7 ◎白河実業高校 ☎ 241176

★ 各科紹介 ④ 建築科

建築科は、令和5年度に新設されました。住宅や商店、学校などの建物は、用途に応じた機能とデザインが要求され、計画・構造・施工・法規など、あらゆる面を勘案し設計する必要があります。

これらを総合的に学習するため、製図や実習を通じて建築に関する基礎知識や技術を習得し、将来建築関係の仕事に就けるよう学んでいます。



現在、建築部では建築競技設計の応募に向け、部員それぞれがアイデアをまとめ、図面を制作中です。



“これから” 地域で輝く在校生

深谷 琉心 さん
(令和5年度建築科入学)
(西郷二中卒)

私は、今年の4月に建築科に入学しました。建築科では、建物に使用される材料について学んだり、住宅の構造を理解するために模型を製作する実習を行っています。また、図面を描く製図の授業では、木造住宅の図面を模写して基礎を学んだうえで、自分で思い描いたデザインを図面化できるよう取り組んでいます。2年生ではCADを使用した実習が始まるため、今からパソコンの基本的な操作の習得に励んでいます。

放課後は建築部で活動しており、自分で設計から製図まで行う競技設計に挑戦中です。

将来は、建築関係の仕事に就き、地域産業の発展に貢献できるよう日々勉学に励みます。